

農作業で 新人研修

神奈川県・
JA相模原市

【神奈川県・相模原】

JA相模原市は、農作業を新採用職員教育に取り入れている。新採用職員は、水稲や野菜の苗作りなどの作業に取り組み、農業やJAの取り組みを知り、JA職員としての意識を養っていく。4月下旬から始まっ



協力し作業する新採用職員（神奈川県相模原市で）

た水稲苗作りでは、本年度採用された9人が、先輩職員から指導を受けながら、播種（はしゅ）や緑化作業に取り組んでいる。育

苗した水稲苗は組合員だけでなく、他JA、小学校の食農教育などにも供給し、地域の米作りを支える。本年度は「キヌヒカリ」や「はるみ」など計4種類、約7000枚を出荷する予定だ。

5月上旬には、新採用職員5人を含む計15人が、同市緑区の水稲

育苗所で水稲苗の出荷作業を行った。新採用職員は指示を受けながら、引き取りに来る組合員のトラックに次々と苗を積み込んだ。

新採用職員の高本優香さん（22）は「農作業の大変さや力を合わせる大切さなどを感じられた貴重な経験になった。組合員とのコミュニケーションにも生かしていきたい」と話した。

JA営農支援課の齋藤敦さんは「新採用職員には、JAの一員として必要な農業支援や協同の心などを農作業から学び取ってほしい」と期待する。